

(社福)慶睦会(福祉・岐阜市)

柔軟な働き方とICTの導入で職員の働きやすさと介護サービス向上を両立

- 「お互い様」の考え方のもと、各職員の事情に応じて、超短時間勤務やフレキシブルな勤務時間を認め、子育て中の方や高齢者、障がい者、外国人など多様な人材が活躍
- アウトソーシングやICTの積極的な導入により、職員の負担軽減と介護サービス向上の両立につなげる

高齢者と障がい者が同じ場所で短期入所やデイサービスを受けられる県内初の共生型施設を令和元年から運営する慶睦会。

「家族の中で暮らすように、高齢者も障がい者も分け隔てなく、同じ環境の中で一緒に過ごせる場所を作りたかった」と話す梶野友季子施設長の思いを反映し、同法人では、「共生」というコンセプトのもと、入所者の多様性にとどまらず、職員についても子育て中の方から70代以上の高齢者、障がい者、外国人など様々な方が活躍しています。



岐阜市内にある共生型施設
「千手の華」

施設長自身の経験をもとに、職員皆が働きやすい職場を目指す

同法人が柔軟な勤務環境を整備し始めたのは17~18年前。自身も子育てをしながら仕事をしてきた梶野施設長自身の経験を踏まえ、自ら制度を変え、職員皆が働きやすい職場を作り上げてきました。以来、「子育てや介護、障がいなどは誰もが当事者になり得ることがあるのでお互い様」の考え方のもと、各職員の事情に合わせて、柔軟に働く環境を整備しています。

多様な人材が本人の体力や希望に合わせて活躍



職員の子どもと触れ合う
施設利用者

例えば、子育て中の職員については、9時半から15時半までの短時間勤務など、本人の都合に合わせてフレキシブルな勤務時間を認めており、子連れ出勤も可能にしており、施設利用者と職員の子どもが触れ合う様子が見られます。

また、高齢者や障がい者には、1日3時間の超短時間から8時間のフルタイムまで、本人の体力や希望に合わせて、無理なく働く職場環境を提供しています。加えて、掃除など高度な日本語を必要としない業務を中心に、2時間程度の超短時間勤務を行う外国人の方もいます。

アウトソーシングも活用し、介護サービスの質の向上と業務の効率化を両立

施設の運営にあたって重視しているのは、介護サービスの質の向上と業務効率化の両立です。

このため、職員配置については、施設利用者への対面的なサービスに関する業務をコア業務として重視し、事務や調理などの業務については、可能な限りアウトソーシングすることで、施設利用者へのサービス向上と業務の効率化を両立させています。また、介護記録や勤怠管理の電子化など、ＩＣＴ（情報通信技術）の積極的な導入により、事務作業に係る職員の負担軽減を併せて図っています。

外部サービス利用により、施設利用者と職員双方の安心感につなげる

また、夜間に急変した入所者への対応として、従前は看護師が当番制で自宅待機していましたが、子育て中の看護師などは夜間の対応が難しいこともあります。介護施設で必要人員を確保するまでのハードルの一つとなっていました。

そこで、夜間のオンコールを医師・看護師が遠隔代理で行ってくれるサービスを利用し、夜勤対応者が些細な異変であっても躊躇なく医師等の専門知識を持った方に問合せできるようにしています。これによって、施設利用者への迅速な対応と職員の負担軽減を両立させ、施設利用者と職員双方の安心感につなげています。

雇う側の工夫や努力が、職員の安定的な確保につながる

これらの取組の結果、人手不足に悩む介護施設が多い中、必要な人員を安定的に確保できており、元々、別の介護施設で勤務し、妊娠を機に退職した方などが復職するケースも増えています。

「人手を確保するには、仕事の割り振りを変えたり、職員が勤務可能な時間に合わせてシフトを変えたり、雇う側の工夫や努力が必要」と語る梶野施設長。

柔軟な働き方を導入した当初は、職員の理解を得るのに苦労もあったそうですが、誰もが当事者になり得る「お互い様」の気持ちが職員に浸透した結果、現在では、職員各自の能力をうまく生かすことによって、施設が安定的に運営されています。



お互い様の気持ちで協力しあう職員

【従業員の声】

年に2回、面談をしてもらい、個人の事情などを法人の方が聞いてくれて、働きやすい環境を用意してもらっています。

【(社福) 慶睦会】 (<https://www.keibokukai.com/>)

所在地：岐阜市茜部菱野4丁目75番地1

従業員：83名（うち正社員33名、パート50名）

設立：平成26年

（令和7年10月末時点）